

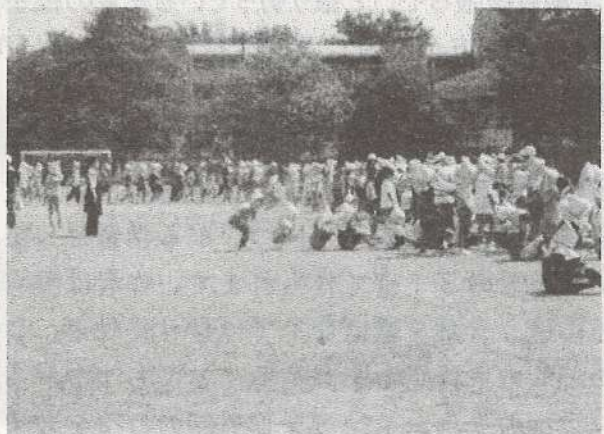
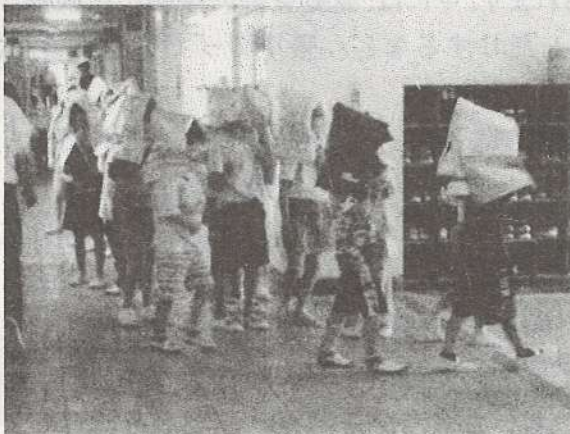
避難訓練

生活指導主任 山田 繭子

「天災は忘れた頃にやってくる」という警句は、大変有名な言葉です。これは寺田寅彦という物理学者が、講演の中で発言したとされる言葉です。寺田さんは物理学者としてたくさんの業績をあげた人物ですが、防災学者として地震・台風・火山などの被災地を調査し、そこから得た教訓を一般向けに随筆として記しました。近年、毎年のように大きな災害に見舞われている日本ですが、実際に体験していないと、遠くの土地の出来事として捉えがちになります。「天災は忘れた頃にやってくる」には、「起きてしまった災害を忘れることなく日々の備えをしよう」という意味が込められているそうです。学校においても、日常生活の様々な場面での災害を想定しておくことが大切だと考えます。

南平小学校では、「自分の命は自分で守る」ことができるように、年間を通して様々な場面を想定した避難訓練を実施しています。学習中に地震が起きた場合、火災が起きた場合、地震などの影響で停電した場合など、子供たちがその場の状況に応じて、命を守る適切な行動を考えていくことが大切になります。必ずしも、近くに大人がいるとは限りません。第一次避難はどんな行動をすればよいのか、第二次避難のためにどの避難経路を通して命を守ればよいのか、などを子供たち自身が考え、行動できる力を身に付けていってほしいと思います。

2学期は、予告なしでの避難訓練を実施予定です。日野警察署の方々にも協力していただきながら、不審者対応訓練も行いう予定です。実際に災害や事件が発生したら、人はパニックになってしまうことでしょう。しかし、どんな行動をとればよいのかを考えていたり、避難経路を知り実際に通ってみたりするなどの積み重ねた経験が、自分の身を守る手助けをしてくれるはずです。より実際に近い形で訓練を重ね、子供たちに「自分の命は自分で守る力」を育てていきたいと思っています。



俳句・短歌の取組

研究主任 堀内 聡

本校では児童の言葉の力を高めるための取り組みを行っています。その1つが俳句・短歌づくりです。2学期に入りしきなみ短歌教室の講師の方をお招きし、短歌のつくり方を学びました。身近なことを題材にすることで興味をもって短歌を作ることができました。4年生から6年生は下田歌子賞というコンクールに挑戦し、出品しています。また、年間を通じて各学年、月ごとのテーマに基づいて俳句を作っています。作品は校長室前の廊下に掲示されています。休み時間に児童が興味をもって読んでいる姿が見られます。

これらの取り組みは南平小学校の伝統的な取り組みの一つとなっています。1年生からの6年間で子ども達の言葉の力がはぐくまれるための取り組みの一つです。校長室前の廊下に掲示してありますので、楽しみいただければと思います。

俳句・短歌の取組

掲示時期	対象学年	テーマ
4・5月	6年	最高学年としての意気込み
6月	5年	八ヶ岳
7月～9月	6年	日光
10月	2年	運動会
11月～12月	3年	芋雲会
1月	1年	新年の抱負
3月～新年度4月	4年	自分の成長

各学年によって掲示時期が決まっています。どの学年も年に1回は掲示しています。

